

積算資料 建設資材価格指数

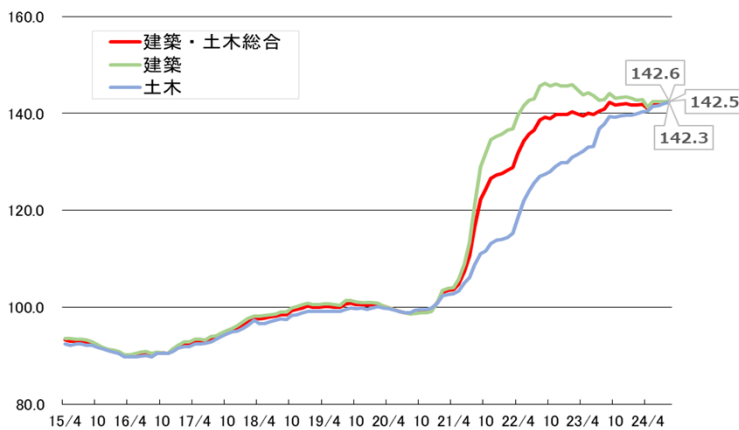


一般財団法人 経済調査会 経済調査研究所

建設資材価格指数は、建設工事で使用される資材についてその価格変動を総合的に捉えることを目的とした指数です。年々変化する建設工事の内容に対応した総合的な価格変動を表す総合資材価格指数として、価格変動に係わる資料や効率的な資材確保の資料等としてご利用下さい。

指数の推移 (2024年8月調査)

全国・2020年度平均=100



	当月指数	前月比	前年同月比
建築・土木総合	142.5	+0.2	+1.6
建築	142.6	+0.1	-0.2
土木	142.3	+0.3	+4.5

指数の詳細な計算結果はこちら
<https://www.zai-keicho.or.jp/service/build/price/>



部門別 主な指数の動き (主要10都市)

	前月比 プラス	前月比 マイナス
建築・土木総合	<ul style="list-style-type: none">●コンクリート二次製品：+11.3仙台、+6.1東京、+2.3広島、+0.6大阪●骨材：+9.9名古屋、+8.9福岡●瀝青材：+3.6新潟、+3.4札幌・仙台・広島、+3.1名古屋、+3.0高松、+2.9福岡、+2.7大阪、+2.2東京	<ul style="list-style-type: none">●瀝青材：-0.9那覇
建築	<ul style="list-style-type: none">●コンクリート二次製品：+14.6仙台、+8.4東京、+2.5広島●骨材：+12.6福岡、+10.2名古屋	
土木	<ul style="list-style-type: none">●コンクリート二次製品：+7.5仙台、+2.1広島、+1.7大阪、+0.4東京●骨材：+9.3名古屋、+3.1福岡●瀝青材：+7.7東京・名古屋・大阪・広島、+7.4福岡、+7.2仙台・新潟・高松、+6.8札幌	<ul style="list-style-type: none">●瀝青材：-2.3那覇

指数集計対象資材の市況

8月調査に基づく建設資材価格指数は、建築・土木総合が前月比+0.2ポイントの142.5となり、2カ月連続で過去最高を更新した。前月を上回るのは4カ月連続であり、動きの基調は依然として強含みと言えるだろう。指数を押し上げたのは、メーカー側のコスト転嫁が各地区で進んだ骨材やコンクリート二次製品、原油高や円高の影響がここに来て製品市況に反映された瀝青材などの価格上昇によるもの。これにより、土木指数については142.3と前月比+0.3ポイント、また、建築指数は142.6と前月比+0.1ポイントとなるなど、いずれも前月比プラスとなっている。ただし、指数の動きは小幅にとどまっており、対象資材の市況は、強含みながら全般的に踊り場局面にある。先行きも、現行水準を維持しながらじり高で推移する展開となる。

指数に関するお問い合わせ先

一般財団法人 経済調査会 経済調査研究所 研究成果普及部 普及推進室 TEL.03-5777-8212